
火星人の戸惑

吐露非狩古鬱

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

火星人の戸惑

【Nコード】

N8874F

【作者名】

吐露非狩古鬱

【あらすじ】

地球が火星侵略？火星人も苦労してるんです……………

（前書き）

30分位で書きました。

長編抱えてる身で何書いてんだ、とか言わない。

火星人が見付けた火星探査機。

火星人が初めて見る『兵器』（？）。

そんな馬鹿火星人間の地球侵略作戦会議です。

太陽系第四惑星、火星――

の裏側――

赤い大地の片隅で、暗闇に支配された山の頂上で何やら、タコみたいな足がやたらと多い、ニヨロニヨロした真つ赤火星人が秘密会議をしていた。

何故かちやぶ台らしき岩を前に、よく分からないが、真剣な顔をしてウネウネ話している。

「#○↑?『〃%【○#!!!!!!」

しばらくお待ち下さい。

「ここから＃！キロ（翻訳不可）の青い星『○』（多分地球の事）が侵略目的で飛ばした口の箱（多分火星探査機）が我々『%！！！！』」

『に（もはや解らない）近付いている』

「『○』は……：……：……×（流行語）なのだな？」

「間違いない」

タコ火星人は真っ赤な顔を更に赤くしてちやぶ岩をダンダンとウネウネ叩いた。

若干気持ち悪い。

「仕方ない」

議長らしき頭のデカイ火星ダコが言った。

「まずは口箱を破壊しよう」

「しかし……：……：……：……！」

「○×'、（名前）流行りだからって#○…@を（多分『流行語』）使うのはやめなさい」

「すみません」

○×'はウネウネ謝った。

「さあ、行くぞ」

真っ赤星人は銀色の、緩やかな楕円のフォルムのレーザー銃を二丁ずつ持って火星の大地を進んだ。

足がいっぱい有るんだから銃いっぱい持てよ、とか言わない。

火星人は歩くのが大変なのだ。

だが、確かに最後尾の○×、だけは、レーザー銃を六丁くらい持っている。無茶だ。

赤い大地は『○』の口箱の足跡で荒らされていた。

「この足跡は!？」

「おい!! ○×、待て! 迂闊に近付くな!! #⌞。○(多分兵器)かも知れん!」

タイヤ足跡に近付いた○×、を制した。タコ足がピクツと止まる。「危ない……」

たかがタイヤ跡でビビってしまうのは火星人の悲しいサガである。

「○*ゝ。(名前)口箱を見付けました!」

確かにタコ足が指す方向に火星探査機がある。

荒野を進む探査機はタイヤ跡(#⌞。○)を付けながらゆっくり進む。

「あれは……何でしょう」

「……………恐らく……」⌞⌞○だ」

えらく真面目な顔でそう言った。何て言ったんだろうね?

「○#!。!!口箱の表面に穴が!」

確かに小さな突起が至る所に付き、そのほとんどに十字の穴が空いている。

「んん……………まさしくレーザー銃だ!」

ただのネジだよ。

「よし! 撃て!」

何故か地球製つばい引き金が付いた銃をタコ足で頑張つて引く。

使い辛そうだ。

六丁のレーザー銃をもった|○。さんはレーザー銃自体にウネウネと悪戦苦闘している。

火星探査機は呆気なく爆発して吹っ飛んだ。

「弱っ!!」

「何だ!!」

「畏だ!!」

「○、#：」
「/〃>&」
「!?!?!」
「?????」
「ウネウネ」

皆さんそれぞれの感想を述べられた。

NASAは突然吹っ飛んだ火星探査機の断末魔を目の当たりにした。
「高かったのに……」

「何だ！予想外に弱いぞ！」

「%:&ぷー〇8888!!!!!!」

「黙れ！うるさい！」

流行り語で喚いた真っ赤星人を、ベチベチと（その名の通り）タコ殴りにして黙らせる。

「緊急会議だ！」

「『〇』を『3〇』（多分望遠鏡）で細かく見てみた」
火星の石で赤い大地にウネウネな図を書く。

「『〇』の周りに口箱が大量に浮かんでいた」

「ウネウネかつ、半円の『〇』をの周りに点を打つ。

「恐らく〇/¥〃だ（兵器…かな）」

「やはり全てレーザーを付けてる」

だからネジだって。

「恐るべし……『〇』……」

「で」

「誰を」

「呼ぶのだ」

三人（？）の火星人は緊急動議により、幾つかの宇宙人種族に、地球侵略を委託することを決定した。何人かの火星人も派遣することが決まった。

「やはり@ @¥だろう」

と言って、頭の横にザンバラドレッドヘアーに仮面の人型を地面に描く。

「いや」〃だ」

と言って、頭が異様に長い猫背で尻尾の宇宙人を描く。

「いや●△●だ」

頭がデカイ真つ白ガリガリ黒目宇宙人。

「いやゝだ」

何だか無駄にデカイ円盤に乗りたがる宇宙人。

「しかし、あいつら触手ばっか付けて気持ち悪いだろう」
人のこと言えんだろうが。

「やたらと好戦的だし」

「@#》だし（多分悪口）」

「で」

「誰を」

「派遣する」

また三人だ。

「.....」

「.....」

「.....」

「君が」

「いや君が」

「どーぞどーぞ」

「お前が行け！」

「#〃〃&!!」

「:.。 .:!!!!」——

結局何回か起きた宇宙人地球侵略作戦で、何人かの火星人を派遣したが、役には立たなかったそうだ。

火星人の一部過激派が極東の島国を何度も襲ったりしたのだが、それはまた別の話だ――

（後書き）

火星ダコが地球侵略会議を開いた風景を想像したら妙に笑えたので、
一気に書いてみました。

馬鹿映画っぽい匂いを加味し、ちょっと変な話になりました。

もう少し掘り下げれば良かったかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8874f/>

火星人の戸惑

2010年12月3日14時30分発行